

第51回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	高ゼミ	チーム名	安全運転
タイトル	AI と自動運転		
テーマ群	d)国際経済 e)産業・企業		
メンバー	岡公義・西牟田浩暉・川崎裕介 田川菜々子・飯沼由樹・丸谷育		
研究計画内容	<p>「研究の背景とその目的」</p> <p>世界最大の検索エンジンを有する企業で知られる「Google」。事業拡大のため Google が目に付けたのが AI と自動車技術である。Google は、多くの情報を素早く処理できる優れた AI、オープンプラットフォームとしての OS を開発することで、世界の自動運転開発競争のトップに立った。</p> <p>Google 製の車載 OS を多くの自動車メーカーに使ってもらえるようになる。国によって交通ルールは異なるがディープラーニングを用いることで対応が可能となる。</p> <p>また、Google は公道と仮想空間でのテスト走行データが他企業と比べて圧倒的なためすでに「waymo one」というアプリで自動運転タクシー配車サービスを行っている。</p> <p>一方日本にそのようなアプリの普及は無く、実際に自動運転の開発がどこまで進んでいるのか理解している人も多くないと言える。</p> <p>そこで本研究では Google が自動車運転に参入し世界のトップを牽引している中、日本国内最大自動車メーカーTOYOTA が Google との競争で優位に立つために必要な経済戦略について考察した。</p> <p>「研究内容」</p> <p>まず Google と TOYOTA の自動運転技術の現状を比較しながら、日本が Google に劣っている点を探し出す。次に TOYOTA が現在自動運転に関する行った取り組みの中から TOYOTA の強みが生かして、人々が国内の自動運転技術の成長を理解・実感するために必要なものを考察する。</p> <p>以上の事を基に TOYOTA がどのような経済戦略を行うことで Google との競争で優位に立つことができるのか、その将来性を考えた。</p> <p>「期待される効果」</p> <p>AI 技術の発達は、私たちの生活に大きな変化をもたらす。自動運転車の開発はその第一歩と言っても過言ではない。</p> <p>今後、TOYOTA が AI と自動運転技術を発展させることによって、「ヒト」・「モノ」・「情報」のモビリティにおける新たな価値と生活を提案し、幸せを量産する社会構築に進むことが期待される。</p> <p>参考文献</p> <p>https://www.woven-city.global/jpn https://sgforum.impress.co.jp/news/4560 田中道昭『2022年の次世代自動車産業』PHP 研究所、2018年、第2章より。</p>		